
アライグマ等防除ハンドブック

第2編

〔現地活動編〕



— 現地活動編 —

〔第2編目次〕

■ 3 現地活動

3. 1 生息調査	STEP5	2-1
(1) 調査手法		
1) エサトラップ法		2-1
2) 足跡トラップ法		2-6
3) カメラトラップ法		2-6
4) 痕跡調査		2-7
3. 2 捕獲準備	STEP6	2-20
(1) 地元説明会の開催		2-20
(2) 作業体制の組織		2-21
(3) 捕獲用具		2-21
3. 3 捕獲作業	STEP7	2-24
(1) 捕獲時期		2-24
(2) 場所の選定		2-24
(3) わなのエサ		2-26
(4) 箱わなの設置		2-28
(5) 点検		2-31
(6) 錯誤捕獲		2-31
(7) 殺処分		2-32

■ 3. 現地活動

3. 1 生息調査

STEP 5

アライグマの生息を確認することは、防除の根幹となる作業です。エサトラップ等を作成して反応を調査します。

(1) 調査手法

1) エサトラップ法

平成 19 年度近畿地方のアライグマ防除モデル事業で考案された方法で、塩ビ管やペットボトルを加工してエサを入れ、吊るしておくものです。

アライグマは両手を器用に使えるため、容器のエサがなくなっていればアライグマによるものと考えられ、初心者でも簡単に調査ができます。

(以下、事業報告書転載)



アライグマの反応状況

【エサトラップのつくり方-塩ビ管】

- 塩ビ管は直径 4 cm のものを使用する。
- それ以上でもそれ以下でもダメ。
- 曲部は90度のものを使う。
- 雨が入らず、アライグマが手を入れられる。
- 円筒は10cmに切る。それ以上でもそれ以下でもダメ。15cmになると、アライグマの手が底まで届かない。



- 底のキャップに穴をあけておくと、もし雨が入り込んでも水が抜け、中のエサが腐りにくい。

- 曲部にヒモを結んで、地表から30cmくらいの高さになるよう、ぶらさげる。



現地活動

生息調査

捕獲

捕獲作業

【トラップのつくり方-ペットボトル】



- 用意するもの
 - ・ ペットボトル
 - ・ 針金
 - ・ エサ（殻付ピーナッツ）
 - ・ ペンチ
 - ・ カッターナイフ
 - ・ 半田ゴテ



- ペットボトルの上部を直径が3.5～4.0cmになるよう切り取る。
そのため、口が徐々に狭くなっているタイプのペットボトル（左下）が良い。



- ペットボトルの底の中央に直径2mm程度の穴を半田ゴテやキリで穴をあける。



■ 針金を50cmと30cmに切る。50cmの方に殻付ピーナッツを通し、真ん中よりやや偏った位置で集める。ピーナッツは曲部に集める。

■ 30cmの針金の先を50cm針金の曲部に取り付ける。



■ ピーナッツを取り付けた針金の端をペットボトルの底の穴に通し、切り落としたペットボトルの口を使ってピーナッツを内側の端にしっかり固定する（左図）

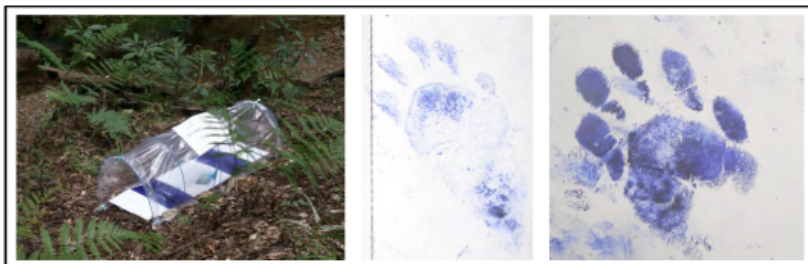


■ 30cmの針金にピーナッツを通し、いくつかはペットボトルの中に、いくつかはペットボトルの外になるように配置し、針金の端を折って、ピーナッツがはずれないようにする（取らせるためなので、1回折り込むだけでよい）。

2) 足跡トラップ法

アライグマが通りそうな場所に、墨汁や炭、紙及びエサを置き、通過した動物の足跡で判定します。

雨等を防ぐ覆いが必要です。



設置状況と採取例

3) カメラトラップ法

撒きエサをした場所をセンサー付カメラで自動撮影します。正確な情報が得られますが、機材費がかかるため台数や設置場所が限定されます。



動画を撮影することもでき、確実な判定ができます。



活動中の映像

4) 痕跡調査

足跡や柱についた爪痕及び食痕により判定します。

痕跡を発見しやすい場所



池の周囲



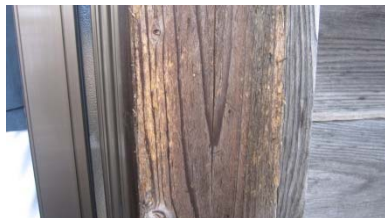
河川の砂場



側溝



神社・寺院



寺院の柱

足跡



5本指の特徴があります



アライグマの歩行跡

アライグマの足型



前足

(小宮輝之氏 提供)

現地活動

生息調査

捕獲

捕獲作業

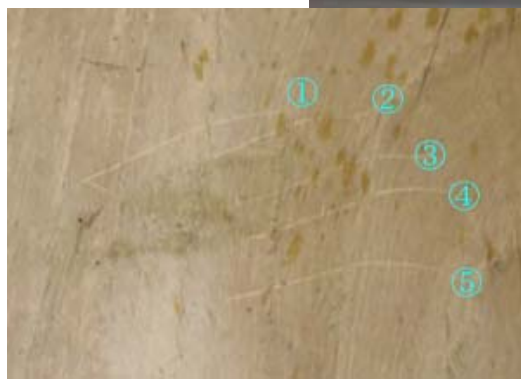


後足

(小宮輝之氏 提供)



板（カベ）に付いている5本の爪痕



食痕



スイカ・メロン等に穴をあけて食べている



ザリガニのからが散乱

今まで普通に見られていた場所からサワガニがいなくなったり、亀の甲羅が見つかればアライグマの捕食が疑われます。

ブドウの被害



現地活動

生息調査

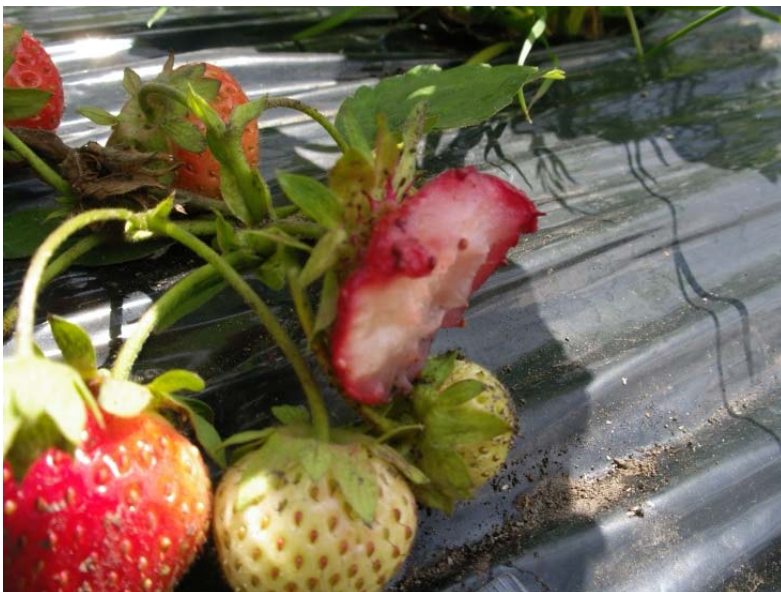
捕獲

捕獲作業

アライグマはブドウの袋を上手に開けて食べます



イチゴ・スイカの被害



(阿部豪氏 提供)



(阿部豪氏 提供)

トウモロコシの皮も上手にめくり、食べます。

表 2-1 調査手法の特徴

	エサトラップ	足跡トラップ
概要	<ul style="list-style-type: none"> 前脚を器用に使うことができる特性を利用したもの トラップの奥のエサがなくなれば、アライグマと判別する 	<ul style="list-style-type: none"> インクや炭、消石灰を設置し、専用のシート上を通過した動物の足跡を採取する
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 安価 トラップの作成が容易 判定技術が不要 長期の設置が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 安価 条件の良い足跡であれば判定は確実
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> サルにいたずらされる可能性がある エサが豊富な場所ではアライグマがトラップに反応しない 	<ul style="list-style-type: none"> 長期の設置不可 判定技術が必要 アライグマがトラップ内を通過しなければ、生息や出現の有無が判定できない
参考価格	<ul style="list-style-type: none"> 塩ビ管 1,000 円程度又は使用済みのペットボトルを使用、エサ代等 100 円程度 	<ul style="list-style-type: none"> 海外市販品 1,000 円程度、覆い 100 円程度、エサ代 100 円程度

	カメラトラップ法
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・熱を感知するセンサー等によりカメラが自動的に作動し、写真を撮影する
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れれば設置は比較的确实 ・撮影されれば判定は确实 ・エサトラップや足跡トラップを設置する場所が無い場合にも有効
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・若干の技術が必要・高価 ・アライグマがカメラの前を通過しなければ、生息や出現の有無が判定できない
参考価格	<ul style="list-style-type: none"> ・国内市販品は約 26,000 円から ・海外品は 10,000 円程度から



動画の撮影

	痕跡調査	一般市民による目撃・痕跡確認
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・足跡や爪痕など家屋侵入等の痕跡を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足跡、爪痕、食痕、家屋侵入等の痕跡を、アンケート、聞き取り調査等により確認する。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・判定精度が高い ・既に痕跡情報が得られている場合に有効 	<ul style="list-style-type: none"> ・器具等の費用が不要 ・市民への普及啓発効果もある。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・痕跡の残りやすい場所が限定的 	<ul style="list-style-type: none"> ・判定は不確実 ・市民の生活空間以外は調査対象とならない。
参考価格	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費 投入日数×単価（技術力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等への掲載費、アンケート調査、聞き取り調査等に係る人件費が必要

3. 2 捕獲準備

STEP 6

外来生物法による事例

(1) 地元説明会の開催

防除試験の実施に当っては、地元説明会を開催し、地域住民の参加と協力を依頼します。



説明会の様子

表 2 - 2 説明事項

説明事項

- ア 事業の目的と内容（外来生物法に基づく事業）
- イ エサトラップや箱わな等の取扱方法
- ウ エサトラップの設置方法
1週間に2回程度の見回りを行い、2週間程度設置し、生息が確認されなかった場合は、別の場所に移動して同様の生息の確認を行う。
- エ 箱わなによる捕獲方法
箱わな設置中は1日1回以上の見回りを行う。
その他の生物が箱わなに入った場合は、速やかに放獣する。
- オ 安楽殺方法
- カ 死亡個体の処分方法
- キ 安全管理

(2) 作業体制の組織

事業の実施者のもとで、狩猟免許（わな猟免許者）の指導を受けながら、地域住民で作業体制を組織します。

表 2 - 3 作業体制

住 民	役 割
従事者	箱わなの設置と巡回、放獣など
一般住民	エサトラップの設置と点検 情報提供

事業の従事者は所定の講習会を受講し、登録して従事者証の発給を受ける必要があります。

(3) 捕獲用具

1) 箱わな

アライグマの捕獲には、一般的に「箱わな」が使用されます。

ホームセンターなどで多種類（ヌートリア用など）が販売されていますが、アライグマは手が器用で力が強いいため頑丈な製品を選びましょう。普及型のバネ式はシンプルな構造で取扱いが容易です。



折りたたみ式（約 17,000 円）



踏み板式
（約 15,000 円）

折りたたみ式は少し価格が高いものの箱わなの保管や運搬にスペースを取られません。

箱わなのサイズは、成獣を捕獲するため長さ 60 cm 以上、高さ 25 cm 以上が必要で、中型サイズが望ましいですが、多数を運搬設置する場合や保管スペースを考慮する場合には、小型の使用が適しています。

また、屋根裏に設置する場合には小型を使用します。



普及型タイプ（約 8,000～10,000 円）

箱わなの取り扱い例（操作方法）

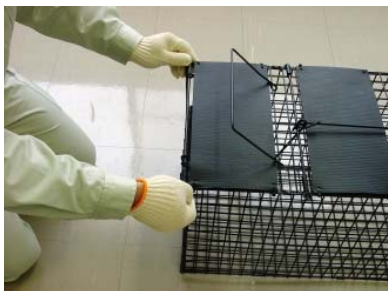
箱わなの取扱い例（操作方法）けが防止のため軍手等を着用しましょう。



セットを開始します。



ストッパーを上にあげ、手持ハンドルを倒すようにして侵入扉を開けます。



エサ掛け用扉の差し込みバーナットを緩めます。



バーを抜き取り、扉を開けます。



エサ掛けフックを手前に引出し、エサをフックに架けます。



エサ掛け用扉の差し込みバーを元に戻しナットを締めます。

2) その他の器具

エッグトラップは、アメリカで開発されたバネ式の手取わなです。



エッグトラップ

3. 3 捕獲作業

STEP 7

一般的にアライグマは、箱わなを仕掛けて捕獲します。

(1) 捕獲時期

季節によって捕獲の効率が変化します。

表 2-3 作業シーズン

季節	特 徴
春	アライグマの活動が活発になる一方でエサが少ないため、最も捕獲効率が良い季節です。
夏・秋	エサが豊富となるため、わなのエサの誘引効果が低下します。ブドウなど果樹被害が多くなります。
冬	活動が著しく低下し、捕獲が困難になります。

(2) 場所の選定

アライグマが活動していない場所に箱わなを設置しても捕獲できません。見回りの疲労だけが積み重なって捕獲意欲が減退します。生息調査による確認が捕獲の成否を決定しますので留意して下さい。

生息や被害情報を基に、畑や家屋への侵入経路及び周辺に箱わなを設置、場合によっては、天井裏に仕掛ける場合もありますので、事前に箱わなの設置場所を検討します。

また、アライグマは河川や水路で活動することが多い

ので水辺に配置することが有効ですが、河川敷は増水で箱わなが流出するおそれがあり、河川への立入にも危険が伴いますので単独作業は止めましょう。



河川への立ち入りは必ず複数で行う

設置場所については、見回りの容易な場所を選び、管理上の負担を軽減します。

ブドウ園などの果樹園の園内にはエサが豊富なため園内よりも、果樹園の排水路など侵入経路を選択しましょう。

空家や納屋、倉庫など無人の建物に生息している可能性があります。



安全に見回りができる場所



長年の空家



ネットを破って侵入している場所

(3) わなのエサ

アライグマは雑食性であり、エサはドッグ・キャットフード、干物、リンゴ、野菜など基本的には何でもよいのですが、肉や魚はネコ・タヌキの錯誤捕獲が多くなるため、パン類（揚げパン・ドーナッツ）やコーン系の菓子、バターピーナッツ、など油や甘いにおいの強いものが、効果的であるとされています。



エサのセット

近年、味付きのインスタントラーメンを用いて捕獲実績をあげている例があり、それぞれの自治体で工夫されています。また、バナナやブドウ、メロン、モモなどの果実も好まれます。

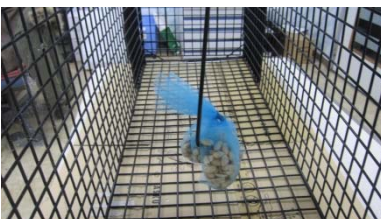
パンや菓子類は、雨に当たると形が崩れるため、箱わなのエサ吊部分を紙パックで覆ったり、エサの上部をビニール袋で包むことが有効です。

バターピーナッツや菓子をトリガーに吊るす場合は、市販の台所ネットや農産品用のビニールネットを使用します。

油やピーナッツクリーム、ハチミツなどで、におい付けすることも効果があるとされています。



味付パンは下部の両端をカット、上部を補強して吊るします。



やわらかいもの、小さいエサはネットに入れて吊るします。



軽いパンなどは、針金で補強したりペグで刺すなどして、動かされたり、持ち去られたりされないよう工夫します。



エサが雨で濡れて傷まないよう覆いをします。

設置期間によっては、腐敗しにくい食材を検討する必要があります。

(4) 箱わなの設置

箱わなには所定の標識を付けます。わなを設置する際は、事前に地権者等の許可を得ておくことが必要で



発見・捕獲場所の例

す。(設置場所によっては、付近住民の警戒感や地権者等からのクレームも有り得ます。) また、一般人の持ち

去りもよくありますので、標識のほかに注意やお願い、連絡先をわかりやすく記載した表示板を取り付けることも有効です。

箱わなは、アライグマの目撃場所や被害家屋又は農場への侵入経路に入口を向け、扉の支障物が無い場所に設置します。

河川や水路、側溝ではアライグマがあたりやすい場所、里地ではけもの道に配置します。けもの道では、道をふさがずに横方向に配置します。



河川へのけもの道



けもの道



河川への出入り口

河川や野原では、草が倒されているけもの道の横に設置しますが、1 m程度に切断した鉄筋で箱わなを固定し、草等で偽装します。

河川敷への設置では、降雨時、少しの増水で箱わなが流出してしまうので注意が必要です。

民家や果樹園では、構造物やネットなどに並行して設置します。また、果樹園などエサが豊富な場所では、誘引用のエサの撒き方や、エサにハチミツをつけるなど芳香にも工夫が必要となります。

建物の天井裏には、小型の箱わなを用います。

最後にトリガーや扉が機能することを確認します。



ネット沿いに仕掛ける

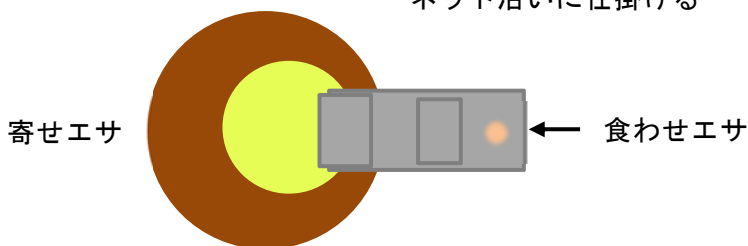


図 2 - 1 エサの配置

箱わなを設置したのち、箱わなの周辺にドッグフード、キャットフード、コーン系の菓子などの「寄せエサ」をまきます。場合によっては、しばらく慣れさせるために扉が下りないよう細工し数日放置後、捕獲を開始することがあります。



寄せエサの状況

(5) 点検

箱わなを用いるとネコ、タヌキ、イタチ、ハクビシン、テンなどが錯誤捕獲される可能性があります。放置するとこれらの動物が衰弱したり、死亡してしまうため、必ず毎日巡回し、錯誤捕獲されている動物を早期に放獣する必要があります。所用のため、見回りができない日は、前日から箱わなの扉を閉じるなど、作動しないようにしておきましょう。

捕獲作業は、箱わなの配置以上に毎日の見回り、放獣が大切です。

(6) 錯誤捕獲

キャットフードや揚げパン、コーン系の菓子などアライグマが好むエサを用いると、ネコやタヌキ、イタチ等が錯誤捕獲される可能性が高くなります。



タヌキ



ネコ

ネコの錯誤捕獲防止には、リンゴをエサとして用いることが有効です。

錯誤捕獲があった場合は、箱わなの横後方に位置して、前部のストッパーを上げ、扉を開けます。

手をかける場合は、かまれないよう取っ手を持ち、動物の反撃に注意してください。

箱わなの後方を少し持ち上げると動物は逃散します。



放獣の様子

(7) 殺処分

アライグマが捕獲された場合、地方公共団体等関係機関・団体に連絡しましょう。

「特定外来生物被害防止基本方針」では、捕獲されたアライグマを「できる限り苦痛を与えない適切な方法」で殺処分することとしています。

錯誤捕獲された動物を殺処分することは、鳥獣保護法または動物愛護法違反となり処罰の対象となります。

1) 二酸化炭素 (CO₂) ガスによる安楽死

捕獲されたアライグマを箱わなに入ったまま殺処分ボックスに入れ、二酸化炭素ボンベ（リース等により調達）からホースでガスを注入します。

ボックスのつくり方

材料

- ・捕獲檻がそのまま入る容器
- ・片口ニップル（調整器のネジ山と同じ大きさのもの）
- ・透明アクリル板
- ・アクリル板を固定するネジ
- ・必要に応じてパッキン
- ・片口ニップルと調整器を連結するチューブ
- ・CO₂ 調整器

注意 1：調整器の許容流入量と容器容量が合致すること（最大流入量が25リットル/分ならば125リットル以下）。



現地活動

生息調査

捕獲

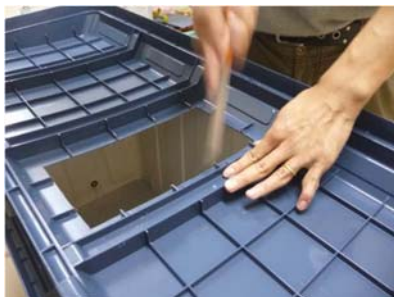
捕獲作業

作製方法

- ①容器の内側の底 5 cm くらいの場所に穴をあけ、片口ニップルを入れ込み、隙間があるようであればパッキンで確実に防ぐ。



- ②容器の蓋に覗き窓となるスペースを開け、アクリル板をネジで取り付ける。



③片口ニップルと調整器をチューブでつなぐ(写真は片口ニップルにのみつないだ状態)。

注意2：使用する際には、ガスがアライグマに直接あたらないよう、鉄板でできている扉を流入口側に置くこと。



連結するCO₂ボンベ



殺処分したアライグマは、地方公共団体等と調整し焼却場に搬入し焼却処理します。

平成26年度中国地方におけるアライグマ等防除モデル事業

平成27年3月

環境省 中国四国地方環境事務所

業務請負 アセス株式会社